

## 令和4年度第3回花巻市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時  
令和5年2月16日(木) 午前10時00分～午前11時45分
- 2 開催場所  
花巻市立花巻図書館 会議室
- 3 出席者
  - (1)委員(7名)  
佛川恒明委員、堀合範子委員、中里美香委員、畠山孝子委員、  
高野橋加子委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員
  - (2)事務局(10名)  
梅原花巻図書館長、小原大迫図書館長、辻村石鳥谷図書館長、  
久保田東和図書館長、高橋花巻図書館副館長、佐々木花巻図書館業務  
係長、黒澤石鳥谷図書館主査、幅下新花巻図書館計画室主査
- 4 欠席者  
5名(菅原俊博委員、安部修司委員、熊谷恵委員、及川智子委員、  
佐藤可那実委員)
- 5 傍聴人  
2名
- 6 議題等(議事録)
  - ◎会議成立の報告(高橋花巻図書館副館長)
    - ・委員12名のうち7名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えている  
ので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを  
報告。
  - 1 開会(高橋花巻図書館副館長)
  - 2 あいさつ(坂本会長)

皆様おはようございます。

本日は寒いところお集まりいただきましてありがとうございます。

5名の欠席ということですが、しっかり協議して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 議 題

(1) 令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

・令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況について、(令和5年1月末までの実施状況を)花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：佐々木業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：辻村館長、東和：久保田館長

(質 疑)

(○中里委員)

子どもたちが本を借りたときに記録する読書おもいで帳が、小学校何校かに入っているということを初めて聞きましたが、これから他の小学校にも入れていく予定はありますでしょうか。

(○梅原花巻図書館長)

小中学校に読書おもいで帳を導入することについては、教育委員会(学校)で検討して決めている内容ですので、図書館からはお答えできないところなのですが、教育委員会から、学校図書館支援員の先生を通じて、「この学校に読書おもいで帳機が入ることになった」という連絡をいただければ、すぐに子どもたち用の読書おもいで帳を発行できるようにということで、学校で取りまとめた申請書を直接いただいて、学校に読書おもいで帳機が入るまでに間に合うような形で、読書おもいで帳を発行しています。教育委員会も学校に入れたいと思っているとは思いますが、予算が伴いますので、計画的には思いますが、(図書館からは)明確にお答えできないところです。

(○中里委員)

わかりました。もし、今読書おもいで帳機が入っている学校で、読書おもいで帳機を入れたことで、子どもの読書の冊数だったり、意欲だったりが変わってくるかどうかということも何かの機会にお伝えいただければと思います。

(○梅原花巻図書館長)

はい。わかりました。ありがとうございます。

(○中里委員)

すみません。あともう一つなんですが、石鳥谷図書館の事業で「おばけ図書

館」というのがありましたけれども、これ面白いなと思ったんですが、私も図書ボランティアをやっているので、図書室でもこういうのができるかなと思ってなんですが、この時の反響、子どもたちの反応とか、もしわかれば教えていただきたいです。

(○辻村石鳥谷図書館長)

(図書館内の) 約 10 か所に、おもなおばけ関連のマスコットなどを設けて、子どもたちに自分が気に入ったところにシールを貼ってもらうということをやっております、去年に引き続き大盛況で、この機会に図書館の本を借りてもらっております。

(○中里委員)

わかりました。ありがとうございました。

(○坂本会長)

アンケートにも、おばけ図書館が好評で行ったというのが出てましたね。子どもたちはそういうのがきっかけで本を読むのかもしれない。ありがとうございます。

はい。佐藤委員さん。

(○佐藤三恵子委員)

意見ですが、5 ページと 9 ページにある学校連携事業で、テーマ別に中学校や小学校で図書展示が行われていますが、一週間程度の展示のようですので、その場でお子さんが読みたい本があったとしても、貸し出される仕組みではないのがとても残念のように思います。そこで、提案ですけれども、例えば展示する期間を一週間ではなく、一か月程度として、その期間、学校のパソコン上で貸し出される形がとれるのではないかと、これは相互貸借で、よその図書館の本を借りる時に一時的にこちらの図書館のバーコードをふって貸し出すというやり方をしていますので、そういう感じに展示する学校の臨時の蔵書みたいな形をとって、お子さんがその学校で借りて学校に返却できるようにすると、ゆっくり読めていいのではないかなと思います。貸し出し状況を見て、多く貸し出される本は、展示が終了してから各学校で購入するというふうにしていけばさらにいいのではないかと考えてみました。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

はい。ご意見ですが、お答えいただけるのであればお願いいたします。

(○梅原花巻図書館長)

学校連携の展示期間は、学校と相談しながら決めているところですので、学校と相談しながら(検討したい)というところですし、展示用で貸し出した

本は、貸出期間中は、学校の中で自由にお子さんたちに読んでいただいている本ですので、相互貸借の形をとらなくても、団体貸出という形で、(生徒さんたちに)学校内で借りてもらって、学校に返してもらうということが可能です。展示期間については学校と相談したいと思います。

ありがとうございます。

(○坂本会長)

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

はい。堀合委員さん。

(○堀合委員)

児童生徒さんは自分でそれぞれ図書館に行くということが難しい場合もあるかと思いますが、それぞれの図書館が工夫して、学校連携とか、あるいは施設見学で受け入れたりとか、大迫図書館はボランティア育成とか、積極的に図書館のほうから学校と関わって、図書館と児童生徒という結びつきを図っていることはとてもいいことだなと思って見ておりました。これからも続けて欲しいと思います。

それから、石鳥谷図書館の30年記念講演会で、ヘラルボニーの副社長の講演がありまして、私も広報はなまきで見て、行って聞くことができました。そのあと岩手日報に大々的にそういった関連の記事が載って、とても時宜を得た講演会を企画したなと思っております。ただ(参加者が)51人、少ないような感じがして、ちょっと残念だったなと思いますが、大変いい講演会を企画していただき、ありがとうございます。以上です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

すみません、私から。どの図書館も、題名というかタイトルをつけるのがすごく上手だなと。キャッチコピーというんでしょうかね。ものすごく引きつけられるような言葉があって、タイトルがあって、すごくいいなと思いました。このタイトルをもうちょっと、例えば広報でももうちょっと大きい文字にするとか、目立つようにしてやれば、目を引くのではないかなと思うようなところがありました。全部同じ活字だと、すうっと読み流してしまうけれども、今回、これを一つひとつ見てみたら、「すごい。これ面白い」って、とても気持ちが惹かれましたので、そういうところも工夫していただければいいのかなと思った次第です。

それでは、次に移っていいでしょうか。

(2) 図書館来館者アンケートの結果報告について

・令和4年度実施の図書館来館者アンケートの結果報告について、梅原花巻図書館長から説明。

(質 疑)

(○坂本会長)

アンケートに関するご意見がありましたならば、お願いいたします。

はい。高野橋委員さん。

(○高野橋委員)

アンケートの設問の6ページの10のところに「富士大学の図書館を利用できますが」というのがあるんですけども、これ設問のところに確か「花巻図書館のカードがあれば入れます」ということが書いてありましたよね。でも、(富士大学図書館では)特に確認はしないんですよ。「花巻図書館のカードありますか」とか、そういうふう聞くことはないですので、利用できるというメリットがよくわからないんですよ。例えば、花巻図書館のカードで富士大学の本を借りられるかということ、それはシステム上の問題で借りられないですから、富士大学の図書館のカードを作らないといけないのですが、何かメリットがあるのでしょうか。

(○梅原花巻図書館長)

富士大学と花巻市がいろいろと連携しているなかで、花巻図書館のカードを持っていると、富士大学(図書館)で登録しなくても閲覧利用ができるというふうなことで、私どももとらえていたんですけども。

(○高野橋委員)

以前、半年だけですけども勤めていましたが、(カードの)チェックはしませんので、一般の方が(この設問を)見た場合に、何となく花巻のカードで(本を)借りられると思ってしまうかなという、そういう気がしました。

(○梅原花巻図書館長)

わかりました。連携が始まった時と形が変わっているかもしれませんが、そこは確認したいと思います。

(○高野橋委員)

「何かメリットがあるのですか」と聞かれたときに、どう答えるのかなということがちょっと気になりましたので。すみません、お願いいたします。

(○梅原花巻図書館長)

ありがとうございます。

(○坂本会長)

他にはございませんでしょうか。

はい。佐藤委員さん。

(○佐藤三恵子委員)

10 ページの 14 番の意見の方がすごく花巻図書館に対して厳しいなと思って、利用する人のためだけでなく、職員が管理しやすいように本棚が整理されていると、この方は感じているんだなあというふうに思うわけですが、例えば、児童室の紙芝居がすべてケースに入っているのは、どのようなお考えからケースに入れているのでしょうか。探すときに字がぼんやりして、探しづらいと思うんですけど。

(○梅原花巻図書館長)

14 番の方のご意見は、(アンケートを) 確認した時点で職員とも共有しまして、できるところから改善していこうということで、CDの並べ替えをしたり、料理やパソコンの本などを仲間ごとにまとめて展示したりということを既にやり始めているところです。

紙芝居についても、確かに探しづらいところがございましたので、今、ケースから出して、並べ方を工夫しようということで、検討を始めたところでした。作業は資料整理日など、休館している時でないといけないところがあるのですが、ケースから出してもっと探しやすいように並べ替える予定でございました。

(今回のアンケートでは) こういった意見をたくさんいただいたので、とても参考になりました。

(○坂本会長)

そうですね。

そうやってすぐ対応していただけるのはとてもいいと思います。そうすると、この方も直っているところを見て、もっと図書館が好きになるんじゃないかなと。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

他にございませんでしょうか。

はい。堀合委員さん。

(○堀合委員)

アンケートの集計、大変ありがとうございます。今説明した以外に、年度別比較表というのも添付していただきまして、ここ 3 年のところがわかって非常に参考になりました。年度別比較表の 4 ページのところを改めて見ますと、新図書館の開館時間について、令和 3 年度の結果は、「現在と同じ」が 50%で、「9時から19時」が 23%ということで、きちっとこういうふうに時間と、そ

れから、パーセントで出していただければ、利用者は現在と同じ開館時間を、少なくともそこは保障して欲しいなという意図がわかって、大変、改めて参考になりました。以上です。

(○坂本会長)

はい。ありがとうございます。

数字で見るとやっぱりはっきりしますもんね。

堀合委員さんは検討委員にもなっているので、そちらのほうでもしっかりとそのことを意見反映してくれると思います。よろしく願いいたします。

他にはございませんでしょうか。それでは次に移ってよろしいですか。

(3) 令和5年度花巻市立図書館運営方針及び事業計画について

- ・令和5年度花巻市立図書館運営方針(案)について、基本方針、重点目標を梅原花巻図書館長が説明後、各館の重点事項、事業概要の説明を花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：梅原館長、大迫：小原館長、石鳥谷：辻村館長、東和：久保田館長

(質 疑)

(○坂本会長)

今説明いただいた5年度の運営方針、事業計画等についての質問、ご意見がありましたならば、お願いいたします。

はい。佐藤委員さん。

(○佐藤三恵子委員)

私は図書館協議会委員に「第4号 識見を有する者」という枠で任命されていまして、9年目が終わり残すところ任期はあと1年ですので、子どもたちの読書活動推進について申し上げておきたいことがあります。経歴をご存知ない方もいらっしゃると思いますのでお話ししますと、岩手芸術祭の県民文芸作品集の選者として、平成13年から25年までの13年間、小説部門の応募作品を読んで、順位を決めるという役割をしていました。各部門の先生方が集まる選者会議でよく話題になったのは、若手の応募者が少ない、どうやって増やしていくのか。子どもたちへの読書支援はどうなっているのかということでした。

私を読み聞かせボランティアを始めた理由、活動を続けている大きな目的の一つが、子どもたちが本に親しんで成長し、いつかやがて書くほうにまわって、県民文芸作品集に応募して欲しいと願っているところにあります。自分の子どもに、幼稚園入園前から、絵のないお話や昔話、幼年童話を読んで

やっていたので、子どもたちへの読み聞かせは絵本だけではないとらえていました。10年前に花巻市の職員である図書館司書さんにお伝えしたところ、その方は読み聞かせるのは絵本とし、絵本の絵を見てやさしい気持ちになって欲しいとおっしゃいました。私は非常に驚きました。子どもの読書支援は、いつから絵を見せることになったのでしょうか。

スキルアップ講座の内容も絵本中心であることに私は長い間疑問を持っていましたので、思うところを岩手日報の論壇に投稿する、あるいはポケットマネーで「子どもに物語の読み聞かせを」という本を買って、図書館に寄贈し、梅原館長にも読んでいただくなど少しずつ積み重ねてまいりました。私が持っている意見は、決して突飛なものではなく、東京方面では既に取り組みされている内容です。今ここにお持ちしましたのは、2014年に出版されている「読む力が未来を拓く 小学生の読書支援」という本です。県内横断検索しますと、10の図書館にありました。一関市立、岩手県立、矢巾町立、大槌町立、盛岡市立都南、陸前高田市立、盛岡大学、大船渡市立、遠野市立、奥州市立前沢、すべて開架です。花巻市内の四つの図書館にはありません。ちなみに一関市内の図書館には、合計6冊あります。これらの図書館を利用する方々は、すぐに読むことができる場所にある本です。この（本の）内容についてですけれども、「小学生になって文字が読めるようになって、自分で本を読めるようになるとは限らないのです」と書いてあって、「小学生時代こそが、絵本を読み聞かせてもらうことから自分で本を読むこと、すなわち絵本から本への、そして読み聞かせてもらうことから読むことへの大きな飛躍を要求される時期であることもはっきりしていました。では、どうすればその飛躍を促すことができるのでしょうか。小学生の読書支援は、目の前の子どもを今援助するためだけに必要なのではなく、一人ひとりの子どものそれからの人生に大きな影響を及ぼす大切な課題なのだということをしっかり心に留めておきたいと思います。」このように書かれています。

そこで、花巻市の図書館運営方針の事業計画の一つの柱に、子どもを取り残すことなく、一人で本を読めるようになっていくまでの手助けをするということを具体的に盛り込んでいただきたいと思います。図書館での取り組みの実践事例ともいえる研修生の論文が、東京子ども図書館のバックナンバー2009年夏号122号に掲載されています。一部を紹介すると、この研修生のいる図書館には、子どもが読んで欲しい本を司書さんたち、研修生たちに読んでもらうという活動が書いてあって、その活動の内容で、報告では、決してその



方々は読み聞かせるとか読んでやるという言葉を使わないで、子どもたちと一緒に読みましたというふうに書かれていて、その一部を読みますと「三時間ひたすら読み続けました。声が枯れてしまうこともありました、一緒に読んでいると子どもと一緒に自分自身もずっと物語の中に入ってしまうような経験もでき、とても楽しいひとときでした。本に没頭する子どもたちの姿は、児童図書館員を目指す私たちに本の力を信じさせてくれました」以上ですけれども、私もボランティアの一人として、子どもが、読むことが苦手な子どもたちでも、その本に何が書いてあるんだろうと思っている、子どもたちがこれなんて書いてあるのって、読んで欲しいって思っている子どもがいるんだったら、30分でも1時間でも読んであげたいという気持ちがあります。そういう大人たちがいるということ、たぶんボランティアをしてる方のほとんどは、本を読んであげたいだけではなくて、子どもに本とともに生きて欲しい、子ども時代に本とともに楽しんで欲しいという熱意のある方々だから、そのボランティアに対する講座が絵本に限るっていうことはないんですよ。そこはもう少し、そんなことは誰でもわかっていることで、先ほど花巻図書館の2階を見ましたけれど、児童サービス論という本があればあるのに、なんで今までできなかったのかなという気持ちもありますので、これはいち早く検討して欲しいと思っています。以上です。

(○坂本会長)

はい。ありがとうございます。貴重なご意見をちょうだいいたしました。  
梅原館長。

(○梅原花巻図書館長)

スキルアップ講座の内容を絵本以外にというところは、毎年ご意見をいただいて、私どもも検討はしているのですが、講師や進め方など、どのようにしたらいいのかなかなか実現していなくて、それについては本当に申し訳ない気持ちで毎年いるところですが、今、来年度に向けて、どのようなメニューでいこうかと検討しているところですので、(ご意見を)参考にさせていただきたいと思います。

また、子どもたちを取りこぼさずに読書支援するということは、本当に難しいというふうに思っています、図書館に来てくれる子たちは本が好きで来てくれている子たちですが、来ない子どもたちにどういうふうに働きかけていったらいいのかということは、公立図書館もそうですし、身近な学校さんとか、みんなですらどうしたらいいのだろうということを考えているところだと思いますので、難しいことではありますが、どういう手だてがいいの

かということを経続的に考えていきたいと思います。

(○佐藤三恵子委員)

例えば、ポスターなどで「図書館では来てくれた子どもたちが読みたい本と一緒に読めますよ」というようなことが掲示されていれば、「読んでくれるんだ」と思って、お母さんたちも、私も（子どもを）連れてくると思います。連れてきていいんだ、図書館の人たちがうちの子どもに、読んでほしいという本を読んでくれるんだと思ったら、私は子どもは間違いなく来ると思います。どうですか。中里さん。

(○中里委員)

そうですね。本って、ただあるだけだと、ただのものですもんね。やっぱり最初に読んでくれる人がいて、受け取って、その意味がわかる、お話の内容とか関係なく、まず読んでくれる人がいて、受け取るというそういう時間の積み重ねがたぶん読書に繋がっていくのではないかなとは私も思うので。だから、本当はおうちの人も読んであげたりできればいいのでしょうけれど、大人でも読書を必要としていない、そんなに本を読まない人もたくさんいらっしゃるの、図書館やボランティアの役割として、本を子どもと共有するということは必要だなと思います。以上です。

(○梅原花巻図書館長)

実は今月、2月5日に、「えらんでたのしいおはなし会」という、(お子さんに)絵本を選んでもらって、その本を職員が読むということをやってみました。面白そうだねということで。普段、狭いこともあって、ポップアップの仕掛け絵本をたくさん並べることができないので、ここの会議室に恐竜とかアリスとか、そういった飛び出す絵本を飾って、そして、何冊か本を飾っている中から、本を選んでもらって職員が読み聞かせするというところをやったんですが、結構好評でした。飛び出す絵本は、恐竜がバーッと飛び出してきたりするので、お父さん方、親御さんにも好評で、たくさんの方が本を借りたついでに寄ってくださって、とてもよかったので、頻繁にはできないけれどもまたやりたいねということで、折に触れて開催していきたいねという話をちょうどしていたところでしたので、そういった子どもたちが好きな本を選んで、去年「みんなでライブラリー」でやった、おすすめの本を子どもたちに持ってきてもらうというイベントでも、子どもたちは、(本を読んであげると言う)いろいろな本を飾っているんですけど、やっぱり自分が選んで持ってきた本を読んで欲しいと言って、あの時は牧野先生が講師でしたので、牧野先生が読んでくださって。子どもが自分で「これ読んで欲し

い」という本を読んであげるといふ、そういった事業を増やしていくといふんだらうなとちょうど思っていたところでした。

(○坂本会長)

はい。堀合委員さん。

(○堀合委員)

本当に今、子どもに読書習慣をどうやってつけるかという、とても大事なことだと思います。各図書館さんもそれぞれいろいろ工夫してやっているわけですが、やっぱりこれは図書館だけではなくて、学校とか、それからあるいはPTAとかですね。それから、もっと幼児の頃の、とか、いろいろな学校と家庭と、それこそ社会の代表の図書館と、この3者でやらないと、1か所だけではということを感じていますけれども、すみません、佛川先生、小学校での読書に対して、どういった取り組みを今なされているのか、昔朝読書なんてありましたけれども。

(○坂本会長)

佛川先生、お願いいたします。

(○佛川委員)

湯口小学校の場合ですけれども、例えば、ちょっとした時間に担任が読み聞かせをしていたりということもあります。その場合は、教室の後ろのほうで、担任の周りに子どもたちが丸くなって座って、そんなこともやっていたし、いつか紹介したことがあると思うのですが、いろいろなジャンル(の本)を読ませたいということであれば、ビンゴにして、そして達成すると、「これを読ませたい、読ませたい」ということで、図書委員が作った記念品がもらえとか。それから、授業の合間ですが、ちょっと時間があくと、担任は図書館に連れていきます。ちょっと半強制的ですけれども、(本を)選ばせて、たくさんの本に触れさせるというようなこともしておりました。

小学生を見ていて、読み聞かせが本当に大事だなと思うのは、例えば、低学年以降見られるんですが、文章を、例えば国語の教科書でもそうなんですが、一行追えない子どももいます。窓にして、その行だけ見せないと読めない子だったり、定規を当てないと読めない子だったり、あとはテレビでよく出てくるのはLDだったり、字が読めない、そんなこともありますし、トム・クルーズは有名ですけれども、日本の落語家さんでも、真打ちになっている方でも読めないという子があったり、そうすると先ほど聞いていて、(本を)読んであげるとか、あるいはテープも売っていたりということもあ

りますので、(今テープはないですね) CDもありますので、そういうものもすごく大事だなと今感じながら、この会に参加しておりました。いずれ、学校では、小学校だからできるのですが、図書館に頻繁に連れて行って、本に触れさせることはしておりました。以上です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。

はい、佐藤委員さん。

(○佐藤三恵子委員)

私は、子どもが小学生のときに小学校の図書ボランティアを熱心にやっていて、坂本先生に本当に手伝ってもらっていたんですけど、その時、お母様たちが私に、「私は読み聞かせしないから」と言って、「うちの子がいる教室にはこういうの読んでやってちょうだい」とか、「しっかりやってもらわないと困るわよ」と言われて、ちょっと本末転倒じゃないかなと思ったけれど、そういう、ボランティアさんが学校に来て読んでくれているから、私は読まなくていいんだ、ラッキーみたいなことを言う人が本当にいるんです。

「2000年の子ども読書年」から、あまりにも全国的に読書ボランティアが増えて、コロナが始まる前は非常に活発にやっていたわけですけど、それがお母様たちが「私はやらなくていいんだ」という誤解を生んだとしたら、どこかで道が間違ったんだなというふうにちょっと思うことができました。以上です。

(○坂本会長)

はい、高野橋委員さん。

(○高野橋委員)

すみません。今の意見を否定したり賛同したりというわけではありませんが、確かに絵本が苦手なお母さんはいらっしゃいます。正直、私は野球にあまり興味がないので、野球の話がされますと「ん？」となるんですが、それと同じくらいのレベルでとらえていいと思います。先ほど佛川先生から、小学校の様子を聞かせていただきましたけれども、ビンゴは、私が仕事として小学校の図書館に入っていた時がありましたので、私がいた時から図書担当の先生と一緒にこなったものです。学校の施設見学で、(図書館に)小学校の2年生とか1年生が来るときありますよね。それが終わった後で、2年生の授業で呼ばれて、(図書の)分類について、2年生にわかりやすいように説明してほしいと頼まれたことがあるんです。「3類どうしよう」とか、ちょっと悩んだのですが、時間をもらって説明をしたんですけども、この

施設見学が終わったらそこで終わりではなくて、それが授業の一環であったならば、そこから学校の図書館で、さらにもっと知識を広げたいければ公共の図書館というふうに繋がっていくものになるので、学校と公共の図書館をつなぐ間は、学校司書がどうしても必要になってくると、ボランティアをやっていると特にそう思いますよね。後で新花巻図書館の時でも出てくると思いますけども、やはり生涯学習課と教育委員会、この二つ分かれているところをつなぐのが、学校図書館の司書というふうになってくるので、行政側のほうにも図書館のほうで入れてくれというのはちょっと難しいですので、これは市として行政側のほうに何とかお願いしたいなというふうに感じました。事業報告を見て、大迫図書館でだいぶ大迫高校とやりとりをしてすごいなと思いますし、高校生がやるとなれば、そこから読み聞かせは小学校で繋がってくるし、これから新花巻図書館の話も出てくると思いますけれど、次の新花巻図書館の利用者は今の子どもたちになってくるので、そうすると図書館の使い方とかマナーとか、そういったものを教えるのは学校図書館のほうが必要になってきます。ということで、やはり学校図書館司書、読書おもいで帳の機械を導入するのであれば、司書を1人雇えると思いますので。

(○坂本会長)

どちらも欲しいですね。

(○高野橋委員)

本当はどちらも欲しいんですけどね。

(○坂本会長)

そうすると花巻の子どもたちの読書の数値がぐっと上がると思います。どちらも欲しいですね。

(○佐藤三恵子委員)

先ほど佛川先生から、字が読めない子どものお話が出ましたけれども、昨年石鳥谷図書館で、ある展示が行われまして。

(○坂本会長)

石鳥谷図書館から説明お願いいたします。

(○黒澤石鳥谷図書館主査)

はい。文字が追えない子どもたちが、色覚の障害がある方もいるらしいので、色つきのものも合わせて、リーディングトラッカーというものを準備しまして、それに合わせて、LLボックスも準備して、(文字を)読めないと思っている方がなぜ読めないか、その解決になるような、ただ読めないで「なんで読めないんだろう」とわからない人がいるかもしれないので、こう

いったものを使えば読めるかもしれないというのをちょっと重点的に行う図書企画展をおこないました。

(○佐藤三恵子委員)

真ん中だけ色がピンクとか、薄緑とか、黄色とか、紫とか、8色ぐらいあって、それを本の上に乗せて、そうするとそこだけがしっかり読めるという、読み飛ばしとかがなく読めるというものが、今、(石鳥谷図書館の)検索機の右のところに置いてあるので、ぜひ見てもらおうと、本当にそれがあるだけで、読めるようになる子どもがいる可能性があるんですよ。例えば、私たちも、リーディングルーペとって一行だけが2倍になるというルーペも実は同じ場所にあるんですが、それをあてながら読んでいくと、夜に老眼で見えづらくなった時も、それをやっていると妙に読み進む。識字障害などそういう障害がなくても、そういうふうな補助具があると、字や本の読み速度が速くなるというものが実はあって、案外簡単に買えるので、ぜひ利用して欲しいものでした。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

はい。いろいろなものの紹介もいただきました。

はい。中里委員。

(○中里委員)

各図書館とも小中学校と連携を図りというふうに書いてくださっていて、子どもは親が連れてこないとなかなか図書館に来れないので、学校の図書室を充実させたいなと私も思うんですけども、先ほど高野橋委員もおっしゃっていましたが、本当は学校司書さんがいてくださるとすごくいいなと思っています。すごくそれは希望しています。ただ、おそらくすぐにはできないと思うので、1年に1回でもいいので、司書さんが図書室に来てくださって、客観的に図書室を見て、図書担当の先生やボランティアにアドバイスしてくれたりすると、すごくありがたいなと思っています。以上です。

(○坂本会長)

要望も出ました。受けとめて欲しいと思います。他にはございませんでしょうか。

はい。堀合委員。

(○堀合委員)

今度の運営方針の中に、「新図書館整備に向けて」というところが2ページの4のところや(花巻図書館重点事項の)⑤のところにもありますし、大変心強いなと思っております。新しい図書館ができてからいざ始めるという

ことではなく、今できることをやっていくというのが見えて大変心強いです。それから、郷土の先人や文化についても、非常に新図書館では大事にしていることの一つですので、それも盛り込んで、意識して進められるということ、大変うれしいなと思いました。感想です。

(○坂本会長)

いかに子どもたちに読書させるかという、いろいろな方法、とても広がったと思います。他に運営方針について何かございませんか。それでは次に移ってよろしいでしょうか。

それでは4番目に移らせていただきます。新花巻図書館の整備についてです。よろしく願いいたします。

(議題4に入る前にリーディングトラッカーやリーディングルーペの実物を委員に回覧)

#### (4) 新花巻図書館の整備について

- ・新花巻図書館の整備について、梅原花巻図書館長が市民説明会等について資料に基づき説明。

(○梅原花巻図書館長)

新花巻図書館の整備について、ご報告をいたしたいと思います。前回の図書館協議会では、新花巻図書館の建設場所について、新花巻図書館整備基本計画試案検討会議の中で、花巻駅前のスポーツ用品店の敷地を希望する、またはどちらかという希望するとの意見が多かったことから、その敷地を利用するためには、所有者のJR東日本から購入する必要がある、スポーツ用品店の場所を候補地として、JR東日本と当該用地を購入する条件について交渉したいと考えており、その前提として、市民説明会を開催したいと考えていること、また、説明会で使用する資料については、試案検討会議委員にご了承いただいたことを市川部長から報告させていただきました。今回は、その後について、市民説明会等の状況や、いただいたご意見について、資料を基にご説明したいと思います。

説明会等でいただいたご意見の詳細については、お手元に資料としてお渡ししております。市民説明会については「資料4-②」、団体等については「資料4-③」、市内高校等とのグループワークについては「資料4-④」にまとめてございます。また、これらの資料については、既に花巻市のホームページで公表しております。

市民説明会は、10月11日から10月27日まで、15会場、2オンラインの計17回開催いたしました。延べ282人、このなかには複数会場に参加した方もいらっしゃいましたので、実数で225人に参加いただきました。発言者は延べ人数で95人ですが、2回ないし3回発言された方もありましたので、同様に実数で81人となっております。

その中では、旧総合花巻病院跡地への整備を希望する意見の方が実数で32名、駅前のスポーツ用品店敷地を希望する方は18名。またスポーツ用品店の土地の購入経費も含めて事業費がわからなければ比較できないという趣旨の意見の方が9名。建設場所としては病院跡地を希望する32名の中で事業費が知りたいという趣旨の意見が2名。スポーツ用品店敷地を図書館用地として市が取得する場合の土地の広さや価格といった条件を含めて、立体駐車場等も明らかにすべきとの意見もありました。

また、10月20日から12月20日まで、市民団体や市内高校等を対象に説明会を実施しまして、団体は11団体120人に参加いただきました。高校への説明は、市内高校すべての6校130人、花巻高等看護専門学校、こちらは駅の東側にあり、旧総合花巻病院の場所にあった学校ですが、43人にも参加いただいております。

その中で、建設場所に関する意見として、J R花巻駅前スポーツ用品店敷地を希望する意見が市民団体32名、市内高校が93名、花巻高等看護専門学校が29名の計154名、旧総合花巻病院跡地が市民団体12名、市内高校25名、花巻高等看護専門学校が13名の計50名、その他意見が12名であり、J R花巻駅前スポーツ用品店敷地を希望する意見が多かったところです。

市としましては、市民説明会等の結果を受け、現時点では建設候補地を確定することは難しいと考え、事業費や建設イメージなど、それぞれの建設候補地について比較できる資料を作成し、その中で、建設コストや建設時期、利用イメージや維持費、費用対効果などについて、市民の皆様へ提示し、意向を確認したいとしたところであり、J R東日本に対し、現時点において市民の声を集約した内容を伝えたいと、売買の具体的な条件や、土地の価格や面積などについて交渉していただけるかどうか確認しているところです。

以上説明終わります。よろしく願いいたします。

(○坂本会長)

はい。ありがとうございます。今ご説明いただいたことに対する質問はございませんか。ないようですから、次に移っていいでしょうか。アンケート等を読みますと、できるだけ早く、「早く」という言葉が何回も出てくるんです



ね。みんなの意見を聞いていたらきりがいいからというふうな言い回しさえありましたけれども、それがだいたいの意見なのかなと。早く作って欲しいなと。一つひとつ手順を踏んでいらしてはわかりますが、大体の目途みたいなものが、いつごろまでに何をして、いつごろまでにこうなるといことがわかれば、いくらかはっきりするのかなと思いました。

それでは、今ご説明いただいたことに対するご質問はないということですので、ご意見はいかがでしょう。

はい。高野橋委員さん。

(○高野橋委員)

先日図書館の説明会に地域のほうで参加しましたし、今月初めに地区で議員さんとの懇談会があってそちらにも行きましたが、どちらも出席者とか参加者はやはり年配の方が多いので、どうしてもそちらよりの意見になるというのはありましたけれど、そのときの説明会でまなび学園の近くに住んでいらっしゃる議員さんがおられて、その方がカラスの問題について言っていたんです。「市役所のあの辺、カラスのフンの被害がすごい。」そういうことを聞きまして、初めてそういったことを聞いたので、そういった問題も含めて考えてもらえればな、というのは思いました。

(○坂本会長)

カラス対策ですか。

(○高野橋委員)

はい。緑が豊かで木がいっぱいあればカラスがねぐらとして使うので、その間の道路がフンまみれになって、被害がすごいということを（聞きました）。

私の実家のほうもカラスがすごく多いところだったので、道路が本当に真っ白なるぐらい酷かったので、そういう対策とかも考えれば、一つそれもあるのかなと思いました。

(○坂本会長)

カラス対策も考えたうえで、ということのようです。

他にありませんでしょうか。

それでは佛川委員からどうぞ一言ずつ（お願いします）。

(○佛川委員)

（どんな話でもということでしたので）前回は花巻市の代表が県の読書感想文コンクールで低学年が上位を占めた、他の学年、部門でもすべて入賞者が出たというお話をしましたが、さらに、ということで、読書感想文集「ひえぬき」を（現在）送付中なんですけれども、そこには載せきれなかったんです

が、その後、県の代表が全国に行きまして、大迫小の2年生低学年の部で県の最優秀だったんですけども、とても素晴らしい成績で、最優秀（1点）、優秀賞（3点）に続く優良賞（3点）に入りました。

大迫小の宮川校長から、宮様（秋篠宮妃）の前で表彰を受けてきたということ、その結果も聞いて参りましたので、花巻市のすごさということを今感じているところでした。以上です。

（○坂本会長）

うれしいニュースありがとうございます。

（○堀合委員）

各図書館がいろいろ創意工夫を凝らしてやってるんだな、というのを毎回毎回、本当にありがたいことだなと思っております。今、佛川先生の方から小学生、非常に作文頑張ってるということでしたが、私、人権作文で中学生に、作文に関わったり、あるいは保護司の方で社会を明るくする運動の作文に関わったりしておりますが、やはり、どうしても年齢が上がると読書の傾向が減って、部活動とかあるいは勉強が忙しいってこともあると思いますが、何とかそういうところも、中学校あるいは高校と連携をして、そういった低学年じゃない年齢の読書についても、何らかの関わりを持っていただければなと思っています。ありがとうございました。

（○坂本会長）

ありがとうございます。

中里委員さんお願いします。

（○中里委員）

図書館のアンケートの自由記入するところの意見だったり、あとこの新図書館に関する要望もいろいろな思いつかないような意見があったり、すごく図書館に対する気持ちの熱さを読んで感じました。館長さんも言ってらっしゃいましたけれども、それは本当にうれしいことなんだなと思います。こうやって意見を募ったことで、花巻市（民）の方の意識もちょっと高まってきているのを感じます。それを励みにしてというか、やっぱり早く良い図書館ができてくれるといいなと思います。以上です。

（○坂本会長）

ありがとうございます。

佐藤委員さんお願いします。

（○佐藤三恵子委員）

先日、梅原館長から東京子ども図書館で年に4回刊行されているこの冊子

(機関紙「こどもとしょかん」)を花巻図書館で2022年度分から購入してくださるといふ、うれしいニュースを聞きました。数年前から私も定期購読していますが、在庫があればバックナンバーの冊子も買うこともできるし、売り切れの場合は評論の部分のコピーを求めることもできます。例えば2008年の117号では、『新・この一冊から 子どもと本をつなぐあなたへ』の『できるまで』というタイトルで、この小さな冊子を出版するまでのことが書かれています。ちなみにこの冊子は県内5つの図書館にあって、花巻市内の図書館には残念ながらないんですけれども、図書館で働く人たちや、ボランティアのために本のリストを作りたいという考えから生まれたものです。その理由は、今の公共図書館では突然ほかの課から回されたっていう人も多く、全く子どもの本を読んだことがない人もいます。司書資格を持っていても、必ずしも児童書に精通している人ばかりではないし、子ども時代に本をたくさん読んだ経験がない人も多い。学校図書館ボランティアも同じ傾向にありはしないかということで、長年子どもと子どもの本に接してきた人たちが新しく仕事につく人たちのために、まずはこれから読んでみてはってお勧めする気持ちで選んだリストということなので、参考にしてもらえればなというふうに思っています。以上です。

(○坂本会長)

はい。ありがとうございます。

高野橋委員さん。

(○高野橋委員)

高校生の説明会の資料4なんですけれども、病院跡地はお化けが出るので怖いというのが思いのほかあったな、というのにちょっと思ったんですけれども、確か盛岡で中央病院が移転した時にその跡地を公園というか、山を作って東屋を作ってというふうになった頃に、あそこに夜に幽霊が出るという都市伝説のようなものが出たのをちょっと思い出したんですよ。なんかそういうのって、今の若い人達もあるんだなっていうのは思いました。

今回基本方針案で、私は長年(基本方針を)見ていたんですけれども、花巻図書館だけ学校に連携するという文言が入ってなかったんですよ今まで。それで、今回初めて入ったので、少しずつ進歩というか、進んでいるのかなと。花巻図書館も面出しがだいぶ増えて見やすくなりましたので、職員の方々すごい努力されてるんだなっていうのは日頃思っていました。新花巻図書館になって、人員が倍ぐらいに増員予定になってますけど、その時にはぜひ、正規の雇用を増やしていただいて、今の方たち、ここだけじゃないです

けど非正規の雇用の方たちがどうしても多いですけど、すごく優秀な方が多いですから、そういう方たちをどんどん上げて。場所が決まれば次は中身になって、一番大事な人は人になってきますので、その辺をよろしくお願ひしたいと思います。

(○坂本会長)

はい。ありがとうございます。

畠山委員さんお願いします。

(○畠山委員)

皆さんのお話をずっと聞いていて、こんなにもいろんなことを考えながら、子どもたちのために、それから大人のために、図書館のことを考えている、図書のことを考えている、読み聞かせのことを考えている、と思いながら聞いていたら、自分も本当に子どもの頃から本が好きで、自分の家の中におもちゃというものがあまりなくて、本だけが合ったのが、自分が本が好きだった原因だったのかなど。読み聞かせを自分の子どもにしました。毎日、夜寝る前に。中学校までいきました。男の子2人に。

「あれ？いつ、あんたたち自分で本読むの？」って聞いたら、「本って読んでもらうものじゃないの？」と（言われました）。どこで私は間違っただろうか。なので、本をまず好きになるってことが、いろいろなことが、情緒のこととか、いろいろなことに発展してくるんですけども、子どもたちが本を好きになる、その琴線というか、その子にとって違うのかな。どこで、何かのきっかけで、本が好きになって、それから本の活字のとりこになって、そこから想像力を膨らませていくのかなと思ったときに、本が好きだから図書館に来るのではなくて、図書館に来てみて、本が好きになったっていうような体験ができたらいいな、すみません、とりとめのない話でしたけれども、何かそう思いながら、いろいろなことを、中で計画しているのを聞いたときに、いろいろな、1人でも多くの子どもたちが本好きになって、大人になって、年を重ねていけばいいなと思いながら話を聞いてました。ありがとうございます。

(○坂本会長)

ありがとうございます。

いろいろな手だてを講じながら、子どもたちを読書に導いていく。それが大事なんだろうなと思います。

この間、ショックな体験がありました。5年生の男の子です。

2年ぐらい前に銭天堂のシリーズというのがあって、あれ面白いですよ

ね。それで早速、全巻揃えたんです。揃えて、学童クラブの本のところに置きました。新しい本だし、読み始めた子もいるんですけど、その頃はまだそんなに読まれてなかったんです。それがNHKの映像で流れるようになって読まれ始めたんですね。それで、たまたま先週ぐらいだったかな。その5年生の男の子と一緒にテレビを見てました。

「銭天堂のシリーズあるよ、あそこに」って言ったら、「でも字読むのやだもん」と、5年生の男の子にそう言われてしまいました。「でも、自分でいろいろなことを想像できるんだよ、読んでみると面白いよ」って。時間があまりなかったのもそれぐらいしか言えなかったんですけど。その子に読ませることをできないかな、と思って今作戦を練ってるところですが、5年生の男の子に字を読むの嫌だと言われてた時のショック、大きかったです。どんな手だてがあるかわかりませんが、いろいろな手だてを講じながら、一つ二つじゃないと思うんです。いろいろな人たちを巻き込んで、行政も、それから保護者の方も、それから地域の大人たちも巻き込んで、それで子どもたちに読書の面白さを知らせることができたらなあと思います。

図書館ができて利用されないとうとうにもならないですから、図書館に少しでも足を運んでもらうような、そういう活動も続けていけたらいいなと思います。

その他は特にないでしょうか。

皆様方もないでしょうか。

それでは、3番の議題については終わりましたので、(事務局に)お返しいたします。

#### 4 その他

・なし

#### 5 閉会 (高橋花巻図書館副館長)